

# 10/20 神田武装制圧と10/21 中央権力

## 斗争(官邸占拠)を斗争拔け

①帝国主義の侵略・反革命・社会再編と対決し、安保粉砕・沖縄の侵略前線基地化阻止・佐藤帝国主義内閣打倒を以て

戦後支配秩序に對する絶大戦を実現し、権力の臨戦体制を分断し解体せよ。学園斗争と10/8以降の街頭政治斗争、これを実現してきた政治の體面が我々に、これ程である。4/28以降我々の内閣に種々の形をとって現出した焦燥、軍事的支持もたらさず政治の形骸化を払拭しなければならぬ。学園斗争は知的労働力再生権の解体と、イデオロギーへの追従、産出をクワロし国家・市民社会総体への叛乱を実現し、それを担う主体の新しい固結形態を実現してきた。そして街頭政治斗争は政策阻止は決定的に不十分であり、叛乱を権力斗争へ、全共斗を労働者の山崩れと結合のもと輝起の機関の出現への、先を実現しなければならぬ。大塚直法発動後、権力の攻撃は我々の政治的力量と圧倒するものであった。そのような権力の存在こそ、帝国主義支配の実現を示すものであり、70年へ絶力をあげた臨戦体制へ向ふ、これのである。しむるこの臨戦体制は決して解されることはないだろう。70年代の問題である」と権力自らが自認しているのである。70年代などのような時代であるのな議論は「ここはなり、それはひとえに我々なるといふことになつてくるのである。学園斗争と労働者の山崩れとの結合によるマクセン・ストライキの実現を、そして中央権力斗争・中絶占拠へ、「二に我々の政治的確證の一切をなげうたのである。神田地区一円の学園警察・武装制圧と左派労働者のストライキとの結合を獲得せよ。10/20から開始される斗争によって権力の政策決定に決定的な打撃を与えていなければならぬ。沖縄に於いて「二七の反響」と及本物の反響と及び存在するのでは有り、帝国主義者の侵略・反革命を暴露した反響が行われようとしているという現実だけが存在しているのだ。二七もの、本物の図式は疎外理論、体制内矛盾論おとくりのものだ。な、フランスを「マギー」一般で概括し「著者」は、左派左翼を二歩も抜けていけりし、街頭でハネるのな粉砕を「思ひ」手出しては迷惑のである。侵略と反革命に反対し、社会再編粉砕、安保・沖縄の政策スケジュールに決定的な打撃を与え、粉砕し、政治危機の創出を、全社会的な困乱を、学園、職場における新左翼のヘゲモニーにおける集約へ、人民戦線系の解体乃至絶滅への道を粉砕せよ、体制内最左派から認め、権力打倒の意識の下自下を組織せよ。武器のイニシアチブにも耐え得る固結を、全共斗武装行動隊を軸に機動隊を粉砕し学園占拠、中絶攻撃へ、あらゆる準備を開始せよ。